

# 茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成30年 2月

## 1 東京都中央卸売市場(平成30年1月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は13.9万 tで、前年比13%減、金額は506億円で前年比8%増となった。
- ② 茨城県産の入荷量は約1.9万 tで、前年比3%減、金額は約54億円で前年比31%増となった。  
(金額の内訳は、野菜49億円、果実5億円。前年同期比で野菜36%増、果実3%減、平年同期比で野菜52%増、果実3%増)  
→金額が【増加】した品目(前年対比)：こまつな(196%)、ほうれんそう(173%)、はくさい(166%)  
→金額が【減少】した品目(前年対比)：トマト(83%)、れんこん(86%)、とちおとめ(91%)
- ③ 茨城県の1月計の青果物入荷量は前年比99%(シェア13.4%)、取扱金額は同145%(シェア10.7%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1月計)		
	1月計	年間計	年間比	1月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木
数量	H30	139,425		18,717	←シェア(13.4%)		12.7%	10.3%	3.1%
	H29	160,792	1,993,784	19,231		8.1	14.2%	8.7%	2.9%
	(前年比)	87		97	シェア(12.0%)				
	平年値※	157,431	2,003,425	18,922		8.3			
	(平年比)	89		99	シェア(12.0%)				
金額	H30	50,605		5,399	←シェア(10.7%)		9.7%	3.3%	7.1%
	H29	46,983	570,001	4,131		6.9	9.7%	3.9%	7.7%
	(前年比)	108		131	シェア(8.8%)				
	平年値※	44,711	553,870	3,719		6.6			
	(平年比)	113		145	シェア(8.3%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成25～29年の5カ年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》  
平成29年実績  
(1～12月計)

茨城県：金額シェア(10.6%)、数量シェア(11.9%)  
千葉県：金額シェア(8.0%)、数量シェア(10.9%)  
北海道：金額シェア(5.9%)、数量シェア(11.6%)  
栃木県：金額シェア(5.6%)、数量シェア(3.1%)

## 2 東京都中央卸売市場(平成30年1月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

( )内は前年対比

野菜類の入荷量は約1万8千トン(98%)、単価は265円(139%)、金額は約48.6億円(136%)

果実類の入荷量は約4百トン(90%)、単価は1,371円(108%)、金額は約5.4億円(97%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成25～29年同月の5カ年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)			金額(千円)				
		前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	はくさい	11,778	103	104	100	147	162	245	235	1,728,548	166	254
	こまつな	489	90	126	93	759	219	188	172	371,068	196	236
	みず菜	495	79	80	77	662	201	154	152	327,860	159	122
	ほうれんそう	375	96	105	76	847	181	151	151	317,272	173	158
	<b>野菜類計</b>	<b>18,321</b>	<b>98</b>	<b>99</b>	<b>89</b>	<b>265</b>	<b>139</b>	<b>153</b>	<b>129</b>	<b>4,855,054</b>	<b>136</b>	<b>152</b>
果実	いちご類	388	89	88	102	1,391	108	117	114	540,311	96	103
	<b>果実類計</b>	<b>396</b>	<b>90</b>	<b>88</b>	<b>86</b>	<b>1,371</b>	<b>108</b>	<b>117</b>	<b>126</b>	<b>543,511</b>	<b>97</b>	<b>103</b>

(野菜)

- ・ はくさい 茨城県産はくさいは、10月下旬の曇雨天、11月以降の低温の影響により例年より小玉傾向であったものの、作付け面積増加の影響もあり、入荷量は前年比103%、平年比104%と多く、市場全体でも本県産入荷量が多かったことから平年比100%と平年並であった。年明け後も、連続した低温の影響により葉菜類の生育が全体的に遅れ、数量減により単価が高騰した影響から、相場は高く維持され、茨城県産は前年比162%、平年比245%、金額は前年比166%、平年比254%と非常に高かった。
- ・ こまつな 茨城県産こまつなは、11、12月の連続した低温の影響により、発芽、生育が平年より遅く、収穫までの生育日数が長引いていることから前年比は90%と少なかったが、近年の作付け面積増加傾向に伴い平年比は126%と多かった。市場全体では、近在産地の埼玉(前年比73%)等で同様の理由から入荷量が減少しており、平年比93%と少なかった。前年から続く入荷量不足により相場は高騰したまま推移し、単価は、前年比219%、平年比188%、金額は前年比196%、平年比236%と非常に高かった。
- ・ みず菜 茨城県産みず菜は、11、12月の連続した低温の影響による生育遅延から収量が少ないまま推移しており、前年比79%、平年比80%と少なく、市場全体では、同様の理由から埼玉(前年比63%)、群馬(同76%)等の主要産地からの入荷量が少ないことから平年比77%と少なかった。前年から続く入荷量不足により相場は高騰し、単価は、茨城県産は前年比201%、平年比154%、金額は前年比159%、平年比122%と高かった。

(果実類)

- ・ いちご類 茨城県産いちごは、1月の寒波の影響から出荷量が少なく、前年比89%、平年比88%、市場全体では、福岡(前年比113%)等からの入荷が順調であったため平年比102%であった。とちおとめ等を中心に品薄感があることから保合い相場が続いたため、価格は堅調で、茨城県産の単価は、前年比108%、平年比117%、金額は前年比96%、平年比103%であった。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績及び東京青果物情報センター速報値を基に算出